

豊かになると不安が増す、この不可思議……

新聞書評が目にとまり「神話の心理学－現代人の生き方のヒント－」を読んだというより、目にしたというべきかな…。

若い頃から神話ものを読みたいと思うことは度々あったが、書店で立ち読みすると、何分、外国の神話ものは登場人物（神かな？）の名前はカタカナだし、日本のものも名前は独特の漢字読みが多くて、購読するまでに至ったことは全く皆無だった自分。

それだけに、「神話の心理学」と書名があると、若干心理学に関心あるだけに、今度は少しは読み通せるかなとチャレンジした次第。

著者は、現代社会のように生活が豊かになり、生き方の選択肢が増えると、一方で、自らがどういった生き方を選択するか不安も増す。そうした一人一人の心の不安の行き着くところが、象徴的に最近のいわゆる不可解な殺人事件や衝動的な事件等に現れてきているのではないかという。

更に、不安を乗り越えるように関係性の中で自分の内面のそれ相応する心の豊かさ、心の知恵が必要になるが、「人々は『忙しい』を連発して生きているが、それは少しでも暇ができて、根源的な問い（自らがどういった生き方を選択するか）が心の中に浮かんでくるのを防ぐために、無理して『忙しい』状態をつくりだしているのではないだろうか。」という。

また、根源的な自らへの問いかけを避けたいがために、「ハウ・ツー」ものを求めがちで、その実、一人一人は不安の根本である関係性喪失で孤独なのでないだろうかという。

こうした根源的な問いへのヒント（深い知恵を学ぶ素材）は、古今東西の神話の中にあるのではないかと云い、神話の中に潜む知恵を、数多くの神話から心理学的に解説している。

日頃、「人に寄り添い、係わり合うことの意味を自ら考えるように！」と云っている自分だけに、著者の概説は理解できたが、如何せん、自分は雑学専門（？）だけに、やはり神話解説部分は、カタカナ、独特の漢字読みが多くて、さっぱり読み解けず、目で舐めるだけのページがほとんどだった。

やはり悲しいかな、神話物語は、自分にはこれからも縁がなさそう……。

（2006年9月5日 記）